

世界地誌の授業における社会科学学習指導の在り方 ー未来予測の授業分析から明らかになったことをもとにー

社会科 川中子 靖

1 はじめに

平成24年度に完全実施される学習指導要領が公示された。その新学習指導要領では、各教科とも思考力・判断力・表現力等の育成に力点がおかれている。平成20年度からの3カ年は、「知識・技能を活用する学習活動および指導計画の在り方ー話し合い活動を核としてー」を研究テーマとして、話し合い活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を育成してきた。

3カ年の研究により、思考力・判断力・表現力の向上が見られ、研究の成果が見られた。生徒への質問紙調査では、課題解決の過程や結果を分かりやすく説明することができる生徒が少ないことや資料収集や資料活用に苦手意識を持つ生徒がいることがあげられた。そこで、「将来の姿を予想しよう」という課題を設定した。ここでは、既習事項の内容を活用させて、将来の姿を資料から読み取らせようとした。話し合い活動を通して、資料の読み取りをさせることにより、思考力・判断力・表現力の向上するのではないかと考えた。

2 研究内容

(1) 授業のねらい

本単元では、資料からアフリカ州の現在の状況とこれからの姿を予想させることを考えた。写真やニュースなどでアフリカ州について報道はされているので、生徒たちはある程度の知識は得ている。しかし、報道されている内容は、貧困や内戦に関するものが多く、それはアフリカ州の一面的なものでしかない。実際にはアフリカ州は急激な発展を遂げている国も少なくない。そこで、資料を正確に読みとることにより、現在のアフリカ州の状況を認識させたい。また、今までの学習内容を活用させることにより、アフリカ州の将来を予測させたい。そして、これらの課題を話し合いを通して解決するにあたって、資料の読み取りの程度により、課題解決の過程を生徒自身がとらえられると考えた。

平成24年度より「世界の地理的認識を深めるため、世界各地の人々の生活と環境とのかかわりや世界の諸地域の多様性について学ぶ項目」が設けられた。世界の諸地域の地理的特色を学ぶのであるが、これは、単に今までの「項目ごとに羅列的な扱いに陥りがちで、しかも学習する地域に関する事実的な知識を覚えること」ではなく、「事象間の関連を追究したり説明したりするなどの学習を通して、地理的な見方や考え方の基礎を養うことを重視」(中学校学習指導要領解説 社会編P.10より) しているとしていることから、この学習課題が適切であると考えた。

(2) ねらいを達成する手だて

話し合い活動を進める上で、資料の読み取りができなければならない。そのために、本時の学習前に、以下の内容を学習した。

アジア州…人口の資料から人口増加の理由を考えさせた。

北アメリカ州…農産物や鉱産資源の分布図の読みとり。輸出入の貿易品目資料の読み取り。そこからアメリカの貿易相手国を考えさせた。

ヨーロッパ州…EUと日米の人口、貿易などの資料から成立の過程を考えさせた。

(3) 準備する教材

アフリカ州の発展を考えさせる上で以下のような資料を準備した。これらは既習事項を活用して学習課題に取り組めるように意識した資料である。そのために、多くの見方・考え方が出るように多様な種類を用意した。主な資料は以下の通りである。

- ・アフリカ州の主な国の貿易品目と貿易額の推移
- ・アフリカ州の鉱物資源埋蔵量の世界に占める割合
- ・世界人口に占めるアフリカ州の割合
- ・日本と世界のアフリカ州に対するODAの割合
- ・AU（アフリカ連合）の説明 など

例えば、「アフリカ州の主な国の貿易品目と貿易額の推移」の資料では、輸出品目が資源から製品に変化している国を例として、資料にのせた。これは、技術の提供を受け、製品を輸出するだけの技術をもったことがいえる。技術をもつことにより、資源より付加価値をもつ製品を輸出できるようになったことから、経済的に発展してきたことに気づけるかどうかのポイントである。

しかし実際には、生徒に学習前のアフリカのイメージを書かせてみると、「野生の動物」「砂漠」「ピラミッド」のようにとらえていた。

このように、生徒は経済的に発展しているとはとらえておらず、自然豊かで未発達なイメージが強かったと思われる。実際、携帯電話で話すマサイ族の写真を提示したところ、驚きの声を上げていた生徒も多く、授業後の感想に一番意外だったことにこの写真があげていた生徒もいた。また、本時の前の授業では、プランテーションで働かされる子どものビデオと、スーダンの経済発展がわかるビデオを視聴させたりして、具体的な現状のイメージをとらえられるようにした。

学習指導要領解説では、アフリカ州の主題は以下のように例示されている。

(ウ) アフリカ：＜主題例＞モノカルチャー経済下の人々の生活

“第一次産品にたよるアフリカ諸国の人々は、どのような生活をしているのか”という問いを立て、アフリカ諸国の主要生産品、主要国の経済状況と生産物、貿易の様子、主要生産品とアフリカに暮らす人々の生活との関連、旧宗主国など先進国との結び付きなどを追究すると、アフリカの脆弱な経済基盤とその理由が明らかになり、アフリカの地域的特色の理解につながる。

しかし、ここ最近では、アフリカ州の新たな資源が見つかるなど、急激に経済の発展が見られる。そこで、主題例に見られる「モノカルチャー経済下の人々の生活」の様子から、プランテーションだけではなく、新たに油田などの資源が見つかった資料などを提示することにより、モノカルチャー経済からの脱却を目指し、急激に経済が発展している理由を考えさせたい。

そして、資料から気づいたこと、考えたことだけを発表させるだけではなく、思考力・判断力・表現力をさらに深めるために、アフリカの20～30年後を資料から予測させた。根拠をもって、将来を予測することは、今までに学習した社会的な見方や考え方をアフリカ

州の資料に当てはめて考えさせることが必要だからである。

3 授業実践例

1 単元名・

アフリカ州

2 単元の指導計画

小 単 元 目 標	<p>(1) アフリカ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、世界の諸地域の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとする。 (社会的事象への関心・意欲・態度)</p> <p>(2) アフリカ州の地域的特色を、そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。 (社会的な思考・判断)</p> <p>(3) 世界の諸地域の地域的特色に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などに、まとめたりできる。 (資料活用の技能・表現)</p> <p>(4) アフリカ州について、そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付ける。 (社会事象についての知識・理解)</p>
時	学 習 活 動 ・ 内 容
1	<p>「アフリカの国境はなぜ直線的なのだろう」</p> <p>1 アフリカの気候や地形について地図帳で調べ、白地図に書き込む。</p> <p>2 アフリカの使用言語や貿易相手国を調べ、独立の歴史について調べる。</p> <p>3 新たに知ったこと、考えたこと、新たに生じた疑問等をノートに書く。</p>
2	<p>「アフリカ諸国の主要生産品と貿易構造～ガーナを例に～」</p> <p>1 チョコの消費国、チョコやカカオの生産国の資料から貿易について考える。</p> <p>2 ガーナの児童労働のビデオを見て、アフリカの現状について考える。</p> <p>3 新たに知ったこと、考えたこと、新たに生じた疑問等をノートに書く。</p>
3 (本 時)	<p>「アフリカ州が発展している理由を考えよう」</p> <p>1 豊かさを示す指標について考える。</p> <p>2 経済が発展しているアフリカ州の例(スーダン)のビデオを見る。</p> <p>3 資料からアフリカが豊かになっていることを読み取る。</p> <p>4 アフリカ州の今後を考える。</p> <p>5 新たに知ったこと、考えたこと、新たに生じた疑問等をノートに書く。</p>
4	<p>「これからのアフリカを考えよう」</p> <p>1 アフリカ州の独立国の数を調べる。</p> <p>2 今までの学習を通して、アフリカ州の国々が新たに取り組んでいることを調べる。</p> <p>3 新たに知ったこと、考えたこと、新たに生じた疑問等をノートに書く。</p>
5	<p>「世界の諸地域・アフリカ」のまとめ</p> <p>1 アフリカ州での学習内容を自分の調べたい課題にそって白地図にまとめる。</p>

3 展開

学 習 活 動 ・ 内 容	資 料 ・ 準 備	指 導 上 の 留 意 点
1 本時の学習課題を確認す	掛図	・ 前時の授業を受けて、違った側面

る。	(アフリカ州)	から学習することを伝える。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> アフリカ州が発展した理由を考えてみよう。 </div>		
2 豊かさを比較するための資料には何が必要かを発表させる	アフリカ州の豊かさを示すスライド	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な資料は教師側で準備する。 ・クイズ形式にし、意欲を高める。指標は平均寿命、乳児死亡率、就学率、カロリー摂取量を使う。
3 アフリカ州が発展した一つの例をビデオで確認し、気づいたことを発表する。	スーダンのビデオワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の様子や町並みなどから発展している様子に気づかせる。
4 アフリカ州が発展してきた理由を、資料から読み取っていく。また、他の生徒の発表を聞き、様々な資料からアフリカ州を発展した理由を多面的にとらえる。	アフリカ州についての資料ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの「アジア州」「北アメリカ州」「ヨーロッパ州」などで学習したことをふまえ、その根拠を既習事項に関連させて発表するように指導する。 <p>【資料例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉱山資源の分布の過去との比較 ・ODAの推移 ・経済発展のようすなど
5 このあと、アフリカがどのように変わっていくと思うかを根拠をもって発表する。	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・資料をもとに、ヨーロッパ州やアジア州で学習したことをふまえ、根拠を述べて発表させる。
6 今日の学習で学んだこと、思ったこと、新たに生じた疑問等をプリントに記入する。	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・記入後、数名に発表させる。

4 指導の実際

本時では、各グループがプリントに示された資料をもとに、グループで話し合い、気づいたことを、グループ内で互いに意見を交換する。その後、その話し合いをもとに学級で話し合い、アフリカ州が経済的に豊かになっていった理由について考えていった。また、発展していった要因を確認した上で、アフリカ州が今後どのように変化していくかを、資料をもとに話し合いを進めていく。将来の予想なので、既習の社会的な見方や考え方を、アフリカ州の資料の読み取りに当てはめていくことになる。つまり、資料をもとに根拠をもって発表をすることである。そうすることにより、多様な見方・考え方が出てくると考えたからである。

(1) 資料からアフリカが発展してきた理由を考える活動

石油の輸入に着目し、アメリカ合衆国で学習した知識を活用し、工業に使用されることを予測したグループもあった。また、「アフリカの鉱物資源埋蔵量の世界に占める割合」の資料と「日本と世界のアフリカに対するODAの割合」の資料を組み合わせ、「これ

から発展が見込めるので先進国が投資している」と発表したグループもあった。同じ結論であるが、「アフリカの近年GDP成長率の著しい国」の資料と「日本と世界のアフリカに対するODAの割合」の資料を組み合わせ、説明していたグループもあった。このように、話し合い活動を行うことは、他の生徒から今までの学習内容を想起させたり、別な見方も意見として出されるので、多面的・多角的に社会的見方をつける上で有効であると思われる。

(2) アフリカの今後を考える活動

- ・(EUやアメリカの学習から) 国民所得が低いために、国民所得の高いヨーロッパに移る人が増える。
- ・(EUの学習から) 資源のある国とない国とで、経済格差が広がっていく。
- ・(日本の歴史から) 先進国から優秀な人を呼び、その人を中心に技術や知識を教え広げていく。教育水準が上がり、技術が向上していく。
- ・(アジアの学習から) 資源が多いので、中国のように発展していく。
- ・(アフリカの学習から) 資源の争いで内戦が拡大して衰退していく。
- ・(EUの学習から) EUのような、経済的に結びついたAUが発足し、発展していく。

現在、アフリカが発展しつつある理由をもとに、20～30年後のアフリカ州の姿を予想させる課題であるが、世界の国々で学習した既習事項をふまえて答えを出している。グループで話し合わせた結果、いろいろ見方・考え方が出された。ただ、EUの学習から「アフリカの結びつきが強くなっていく」についての意見は、あまり出なかった。これは、地理的分野というよりも公民的分野に近いからであろう。

(3) 話し合い活動についての検証

アフリカ州の学習終了後に「アフリカ州の授業を通して分かったこと」についての記述を見てみると以下のような記述が見られた。

- ・いろいろな資料を用いて考えると、思いついた考えとはまた別の意見も考えることが出来るということが分かりました。
- ・いろいろな資料を総合して見るのが大切だと分かった。
- ・私はこの後、発展していくのではないかと考えたのですが、みんなの意見を聞いてみると、衰退も考えられるなど納得しました。
- ・内戦は日本と似ているけど、日本の場合は徳川家康がおさめたからよかったけど、アフリカの場合面積も大きいし、まとめる人ができても争いがおさまることはなかなか無いと思う。
- ・今後、アフリカの人口が中国みたいに増えたら問題が起きたりするのかなと思った。

生徒の記録から、資料の読み取りの重要性を理解したことがうかがえる。ただなんとなく資料をみるだけでは見えなかったことが、しっかりと吟味することにより、多様な見方ができることが分かったようである。また、一つの資料だけでなく、多くの資料を組み合わせることにより、深く考えることができることも大切であることが分かったようである。また、他の生徒の意見を聞いて、自分の考えを他の学習事項と絡めて考え直して振り返り

を書いた生徒もいた。さらに、AUの経済的統合についての反論で、「現在アフリカの国々によって経済的な格差が存在する以上、仮に統合しても格差が広がるだけなので、経済的に統合するのは意味がない」と書いた生徒もいた。このように、単なる資料の読み取りから気づいたことや考えたことだけを書かせるのではなく、根拠をもって将来の姿を予想させることにより、他の世界の国々で学習したことをモデルとして、アフリカ州の未来を予測することができた。これは、他の世界の国々で学習したことが生きてはたらく知識として身につけていることを意味している。このように、生徒の解答にはかなり幅が出てくることが予想される。そこで、生徒から出た幅の広い解答の評価をどのようにするかという課題が浮かび上がった。

5 おわりに

今回の授業で、資料の読み取りについて、自分で考えたことと他の生徒の意見を比較しながら、思考をめぐらして読み取っていたことが分かる。グループによる話し合い活動することによって、既習の学習内容を生かしたいろいろな見方や考え方がでてきた。「アフリカ州の今後について考える」課題についても、今まで学習したヨーロッパ州の知識などを活用して予測していたのは、今まで学習してきたことが生きてはたらく知識として定着していたと言えるだろう。このように、未来予測をさせることにより、既習の知識の中からあてはまる内容について吟味し、思考をめぐらせていることがわかる。したがって、未来予測の課題は、思考力・判断力・表現力の育成させるための授業において有効であるといえる。ただ、そのためには、いろいろな見方や考え方を引き出すために、豊富な資料を準備する必要があるだろう。また、活用させるためには、本時以前で、活用させるべき基本的な知識の習得をさせることも忘れてはならない。

また、発言しない生徒についても、ワークシートを見てみると、資料から読み取ったことや、生徒同士の意見交換などから、自分なりの解答を導いてワークシートに記入をしている。このことは、分からないから発言をしないのではなく、思考をめぐらしてしっかりと解答を導いていることを意味している。したがって、基礎的、基本的な知識・技能を習得させる段階で、それを後の学習において、活用できるように生きてはたらく知識として学ばせる必要があるだろう。

また、発言しない生徒や資料からの読み取りがどこまでできたかを知るためにも、ワークシートを工夫するなどあわせて行っていきたいと思う。ワークシートについては、ルーブリックを生徒に書かせる前に作り、正確な形成的評価を行うことができるようにするとよいと思われる。そのためには「事前に、『理想的なパフォーマンス』『合格ライン』『つまづいている』といったレベルを想定して『予備的ルーブリック』をつくっておくことも有意義である」と述べている。（『「活用する力」を育てる授業と評価』より引用）そのためには、パフォーマンス課題の設定にあてはまるルーブリックについても考えていかなければならないだろう。

【引用・参考文献】

西岡加名恵・田中耕治著『「活用する力」を育てる授業と評価

パフォーマンス課題とルーブリックの提案』

学事出版

2009年

文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編」

2008年